

—追 悼—

(故) 小林寛伊先生を偲んで

一般社団法人日本環境感染学会の理事及び名誉会員として長年にわたって本学会の発展にご尽力いただきました小林寛伊先生は、2018年8月13日にご逝去されました。享年83歳でした。7月にご入院される直前まで海外でのご講演など、学会活動や執筆を精力的に行われてきました。7月14日の品川での講演会を最後に、公の面前へご出席されませんでした。ご自分の責務を全うされようとするお姿が大変凛々しくもお気の毒に感じられました。7月16日早朝に緊急入院されましたが、その後病状は次第に悪化し、次にご面会した時にはわずかな会話しかできませんでした。私に「最後までよろしく頼む」と言われた言葉がとても印象に残っています。

小林寛伊先生は本学会の設立準備から総務担当としてかわり、その後は理事として、また1998年から2001年まで第四代理事長としてご就任されました。この間1990年には本邦初の「病院感染防止指針」（日本環境感染学会編）を病院感染マニュアル検討委員会委員長として発行されました。1996年には教科書としての「感染制御学」を編集発行されました。1999年4月発行の「消毒と滅菌のガイドライン」は感染症法の施行に当たって実務の参考となるものを編纂する必要から厚生省保健医療局結核感染症課監修、小林寛伊編集の冊子が刊行されました。その他、学会教育施設認定病院の認定、学会関連用語英和対照表発行など感染制御一筋にわが国のこの領域の牽引車としてご活躍されました。



東京大学時代には世界的にも新規の分野である病院感染制御学における草分けとして感染制御学講座を創設され、わが国の感染制御学の基礎固めとして学問体系の確立に努められました。以後、日本環境感染学会をはじめ、日本手術医学会、日本医科器械学会の理事長、日本感染症学会および医療マネジメント学会の理事など多数の感染関連の学会におけるリーダーとして、わが国の感染制御の発展にご尽力されました。一方、国際的にはEast Asian Conference on Infection Control and Preventionを創設され、アジア地域の感染制御活動の普及に貢献されました。そして英国Hospital Infection SocietyのEditorial Adviserとして、また米国The Society for Healthcare Epidemiology of AmericaのSHEA Fellowとして、小林先生の活躍は欧米においても高く評価されています。

行政に係るご貢献として、厚生労働省の院内感染対策有識者会議ならびに院内感染対策中央会議の座長として、国の感染制御に関するグランドデザインの策定や提言作りを通して、これからわが国が進むべき道筋を明らかにされました。

小林先生は、病院感染（nosocomial infection）に限らず広く社会環境のなかでの医療関連感染（healthcare associated infection）の制御が重要であることに注目され、種々の感染の予防と対策についてわが国を指導してこられました。さらに感染制御の実践には、全国の各種の医療機関における感染対策ネットワーク作りと多職種のコラボレーションによる感染制御活動が重要であることを早くから提唱され、率先してこれらの充実に奔走されました。とくに手術部位感染（surgical site infection：SSI）サーベイランスにおいては、米国CDCのサーベイランスのシステムを参考にした、日本独自のSSIサーベイランスシステムとして1999年

に JNIS 委員会（現 JHAIS 委員会）を発足させました。現在までにわが国の多くの施設が参加する SSI サーベイランスの発展に寄与され、周術期の感染発症率の低減に大きく功績を残されました。

この様に 83 年間の生涯はまさに全力疾走の人でした。生涯現役としてわが国の感染制御の発展に大きくご貢献されたその業績は計り知れないものがあります。このような積み重ねが「山上の光賞」受賞に繋がったものと思われまます。

これからは私たちが、後任として先生の志を受け継ぎ、感染制御の充実に努めてまいる所存です。ご冥福をお祈りいたします。

略 歴

【学歴・職歴】

1963 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業
1964 年 4 月 胸部外科学教室（木本外科）入局
東京大学大学院医学系研究科第三臨床医学専門課博士課程入学
1969 年 2 月 医学博士（東京大学 博医第 191 号）
1977 年 7 月 東京大学助教授医学部，東京大学医学部附属病院中央手術部副部長
1981 年 2 月～ 3 月 Central Public Health Laboratory, Division of Hospital Infection, London
1991 年 1 月 東京大学医学部附属病院院内感染対策部部長
1993 年 5 月 東京大学医学部附属病院材料部部長
9 月 東京大学教授医学部，東京大学医学部附属病院感染制御部部長
1994 年 6 月 東京大学教授医学部感染制御学講座
1996 年 3 月 東京大学定年退職
4 月 関東通信病院病院長
2002 年 3 月 NTT 東日本関東病院病院長定年退職，名誉院長
2004 年 11 月 東京医療保健大学教授 学長
2013 年 3 月 東京医療保健大学教授 学長任期満了，名誉学長
2013 年 4 月 東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 研究科長
2016 年 4 月 東京医療保健大学退職，根岸感染制御学研究所所長

【受賞歴】

The Kilmer Memorial Award 2003 2003 年 10 月 8 日

山上の光賞（第 1 回）2015 年 5 月 12 日 ほか多数

一般社団法人日本環境感染学会
元理事長 大久保 憲
(東京医療保健大学 名誉教授)